

# 参 考 资 料

1 教職員の勤務時間

我が国の教員の現状と課題 -TALIS2018vol.1の結果より-

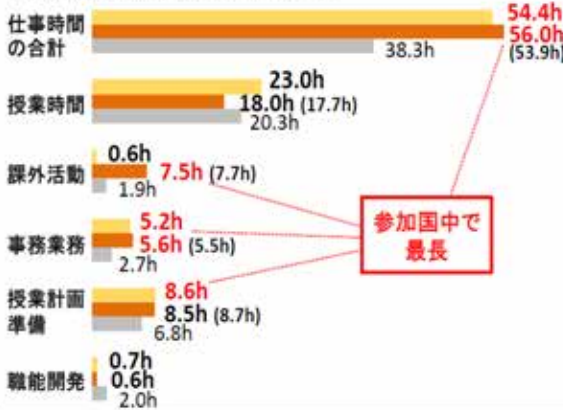
**TALIS 2018** ・OECD加盟国等48か国・地域が参加(初等教育は15か国・地域が参加)  
 ・日本では2018年2月～3月に小学校約200校及び中学校約200校の校長、  
 教員に対して質問紙調査を実施

■ 日本(小学校)  
■ 日本(中学校)  
(括弧内は前回2013年調査)  
■ 参加国平均(中学校)

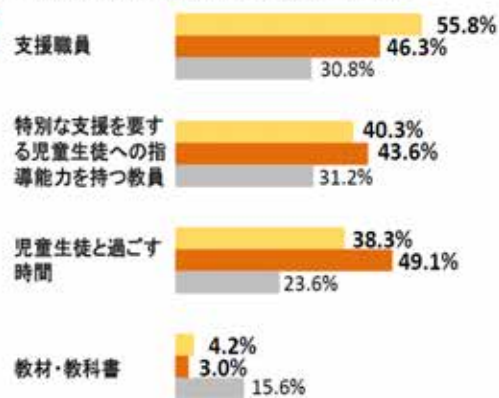
**教員の仕事時間は参加国中で最も長く、人材不足感も大きい。**

- 日本の小中学校教員の1週間当たりの仕事時間は最長。
- 前回2013年調査と同様に、中学校の課外活動(スポーツ・文化活動)の指導時間が特に長い。一方、日本の小中学校教員が職能開発活動に使った時間は、参加国中で最短。
- 質の高い指導を行う上で、支援職員の不足や、特別な支援を要する児童生徒への指導能力を持つ教員の不足を指摘する日本の小中学校校長が多い。一方、教材の不足については指摘が少ない。

<教員の1週間あたりの仕事時間>

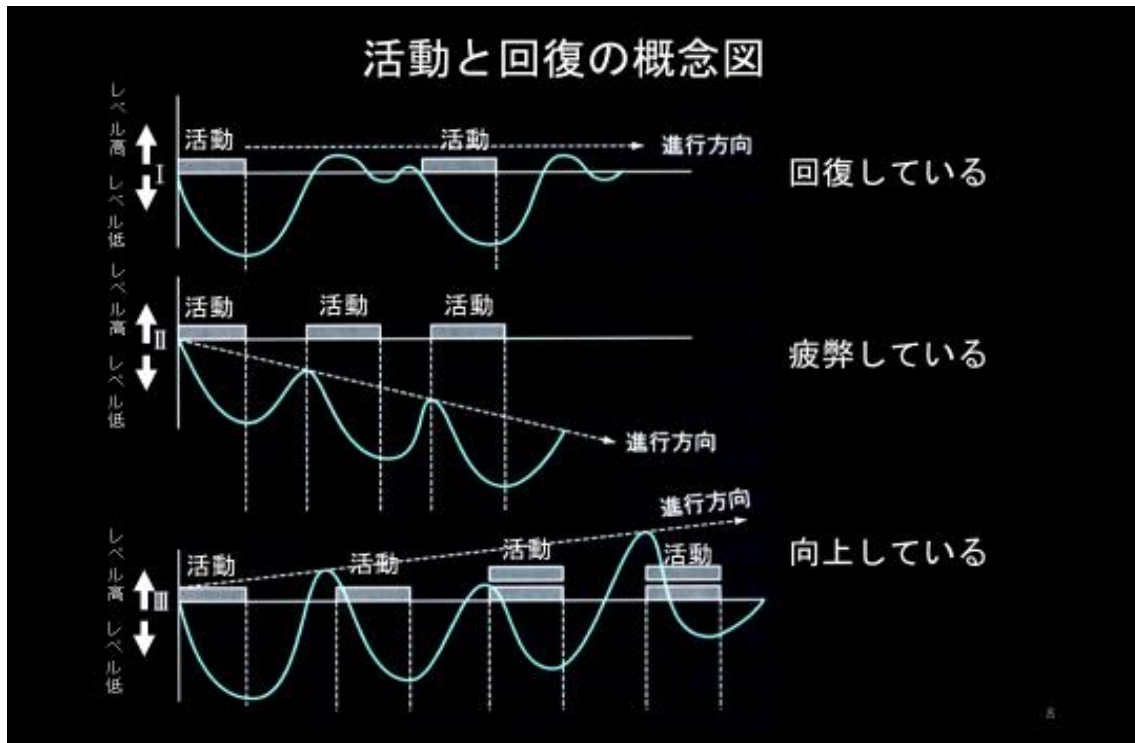


<学校における教育資源の不足感(校長)>



参加国中で最長

2 効果的な休息によるパフォーマンスの向上 ※出典

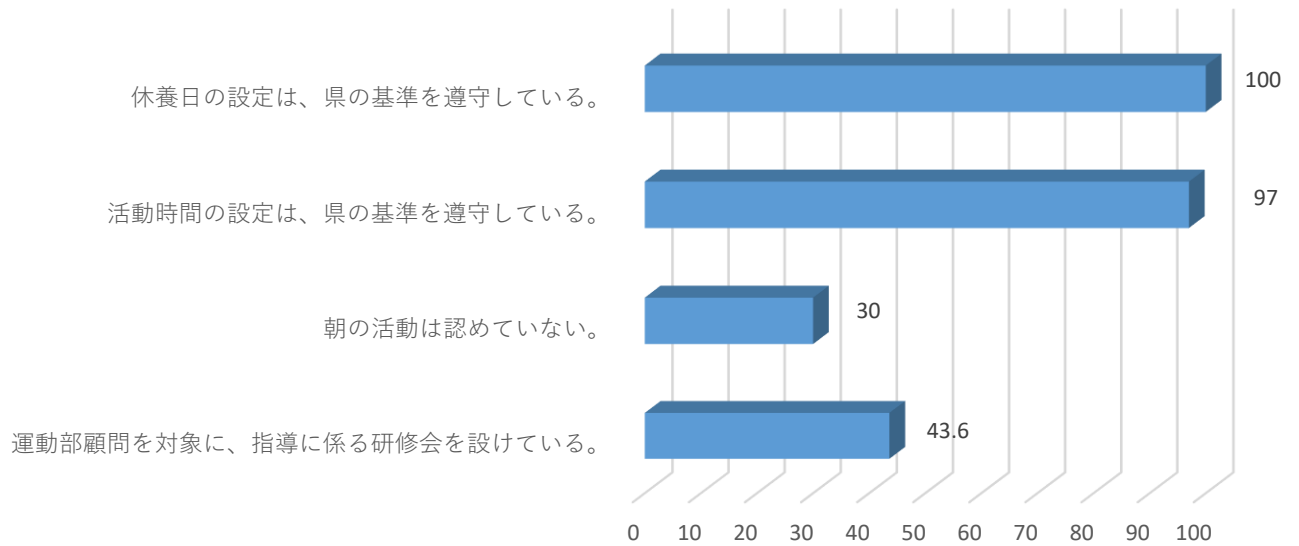


・休息をとることにより、疲労回復とともにパフォーマンスが向上。

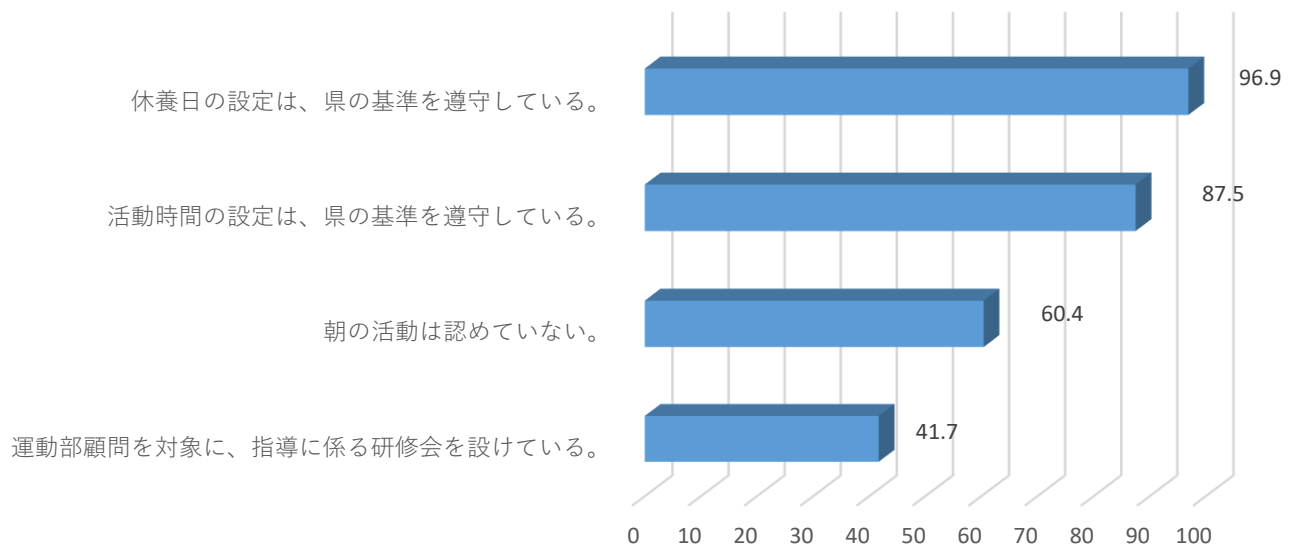
### 3 本県部活動の運営方針取組状況

部活動運営方針フォローアップ調査(R3.11.1)管理職アンケートより

#### 【中学校】



#### 【高校】

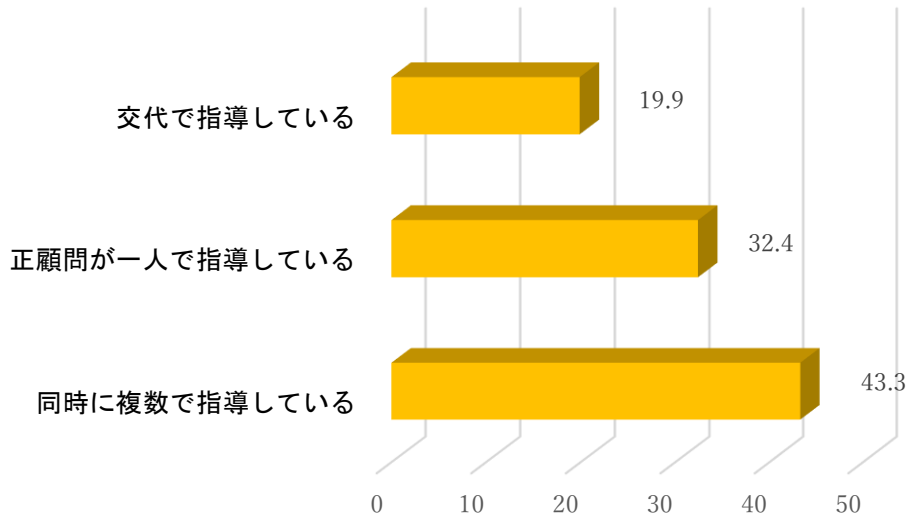


#### 4 複数顧問制の状況

部活動運営方針フォローアップ調査(R3.11.1)顧問アンケートより

##### 【中学校】

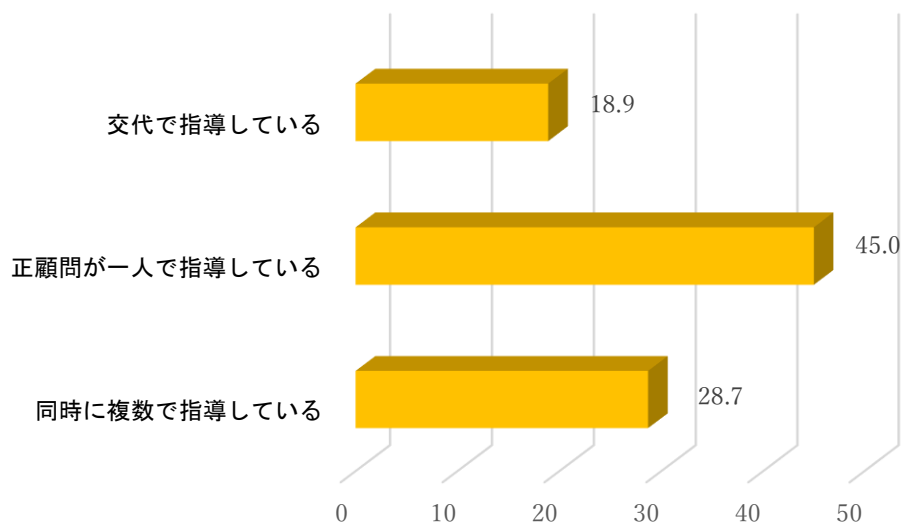
・複数顧問制を進めているが、二人が同時に指導に当たっている事例がある。



※部活動指導員や外部指導者が関わっている 4.4%

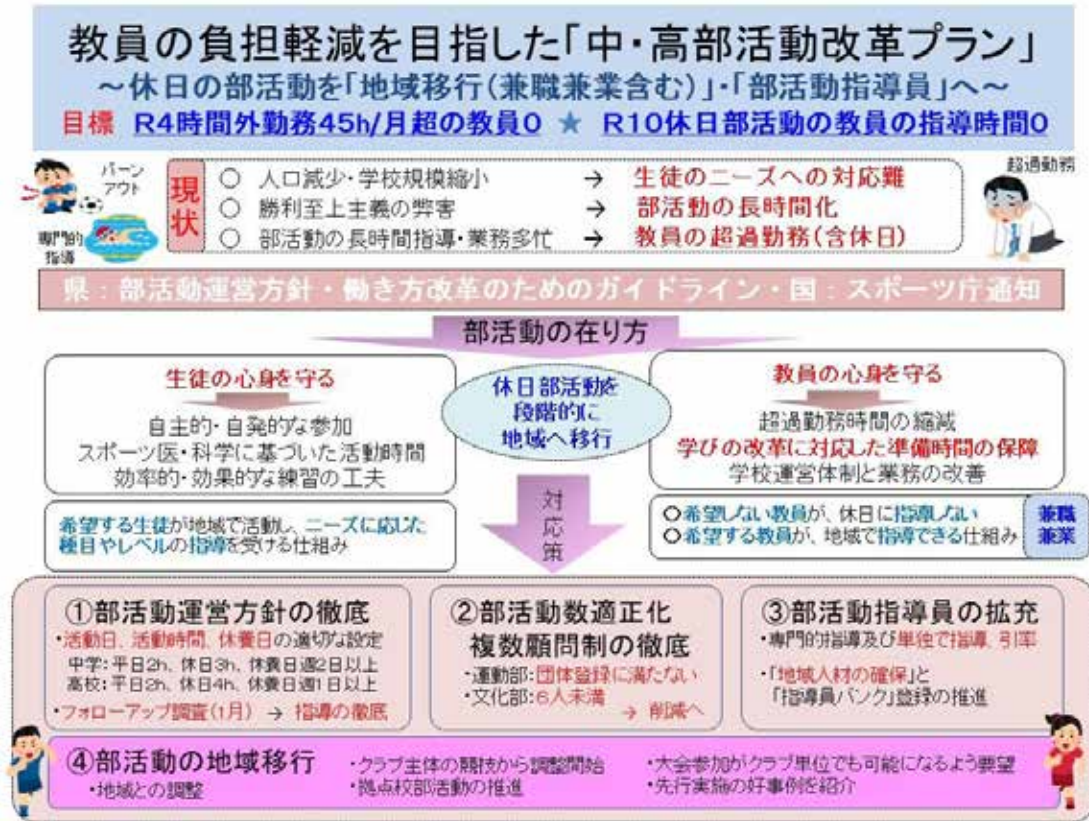
##### 【高校】

・複数顧問制を進めているが、正顧問が一人で指導に当たっている事例がある。

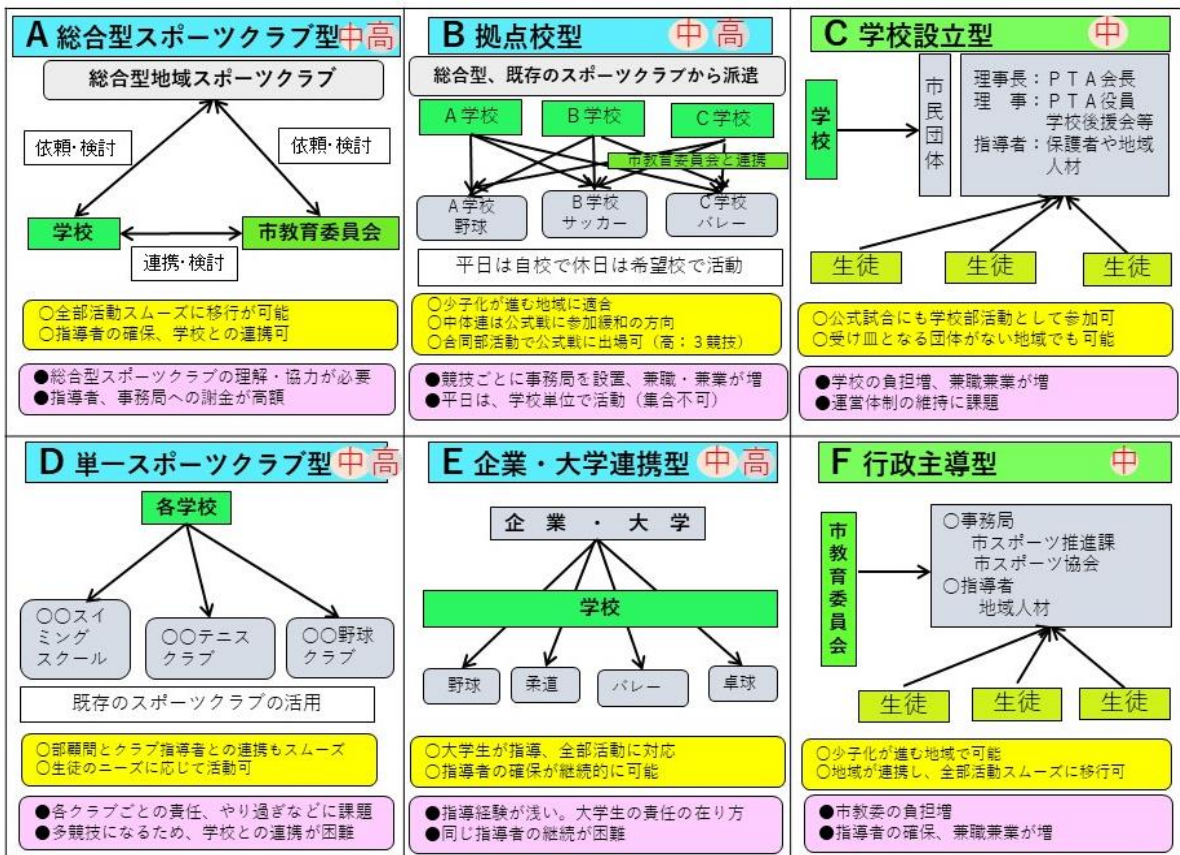


※部活動指導員や外部指導者が関わっている 7.4%

5 教員の負担軽減を目指した「中・高部活動改革プラン」 令和3年度策定



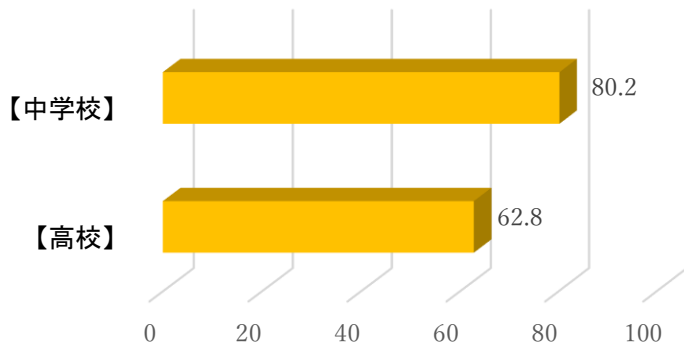
6 地域の実情を想定した移行パターン





## 7 部活動指導員の必要性について

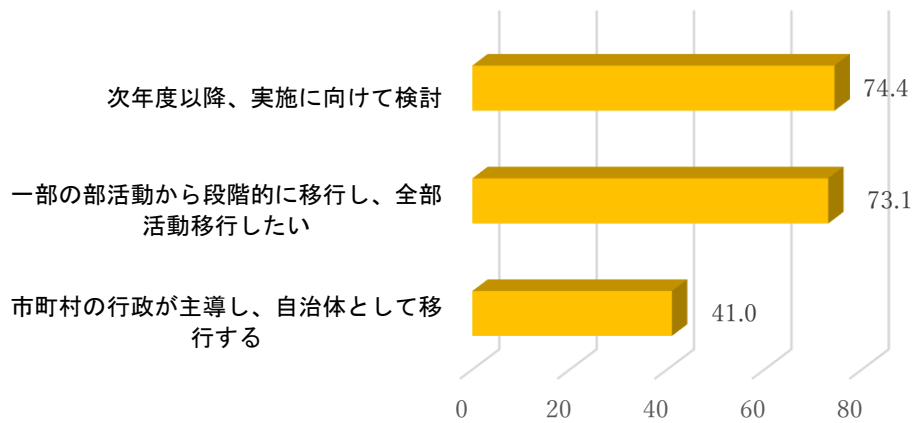
部活動運営方針フォローアップ調査(R3.11.1)顧問アンケートより



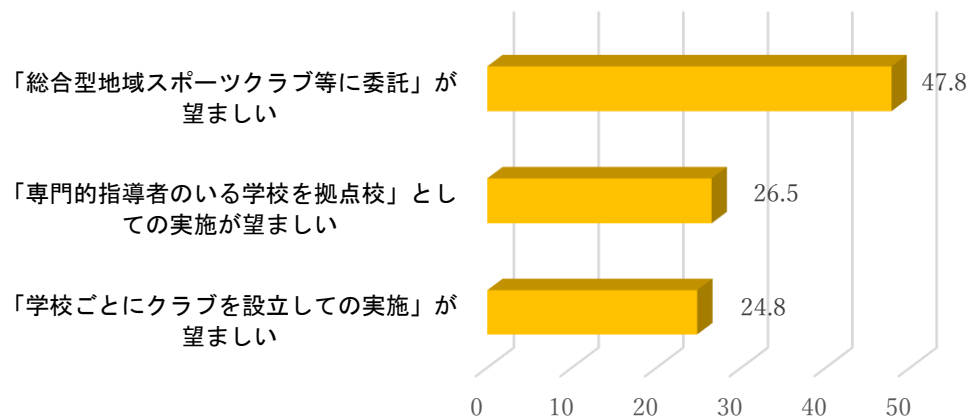
## 8 部活動の地域移行について

部活動運営方針フォローアップ調査(R3.11.1)管理職アンケートより

### (1) 中学校における地域移行の検討状況



### (2) 高校における部活動の地域移行する場合の望ましい形態



### 9 令和3年度勤務時間外在校等時間の状況（4月～3月）【中学校】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
超過在校等時間の平均	66.47	60.09	67.30	52.21	8.24	24.09	58.30	53.53	46.34	38.51	39.05	47.33
80時間越	31.6%	23.5%	34.7%	13.8%	0.03%	0.4%	21.1%	12.3%	5.1%	0.8%	0.7%	3.9%

- ・中学校は、4月・5月・6月・10月に超過勤務者が増加している。年度初め、6月は総合体育大会、10月は新人戦等の部活動指導時間、練習試合の実施等により業務が増加している。
- ・9月1日～12日は非常事態宣言により、義務、県立学校が臨時休校で勤務時間外在校等時間が減少。

### 10 令和3年度勤務時間外在校等時間の状況（4月～3月）【高校】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
超過在校等時間の平均	35.35	33.29	34.08	29.33	8.40	12.30	30.27	28.11	24.42	22.40	19.49	21.53
80時間越	4.1%	4.4%	3.0%	2.1%	0.1%	0.2%	1.6%	0.5%	0.4%	0.1%	0.1%	0.3%

- ・時間外在校等時間の平均は1月当たり45時間を下回り、減少傾向。
- ・10・11月は部活動の再開による大会・練習試合の実施等により週休日の部活動指導時間及び進路指導関係業務が増加。
- ・2月はまん延防止等重点措置により、部活動が原則禁止となったことで平均時間が減少。

### 11 令和3年度長時間勤務の要因【中学校】

- ・時間外在校等時間80時間／月超過者の原因分析状況  
→時間外の主な業務として「部活動」をあげる教員が最も多い。

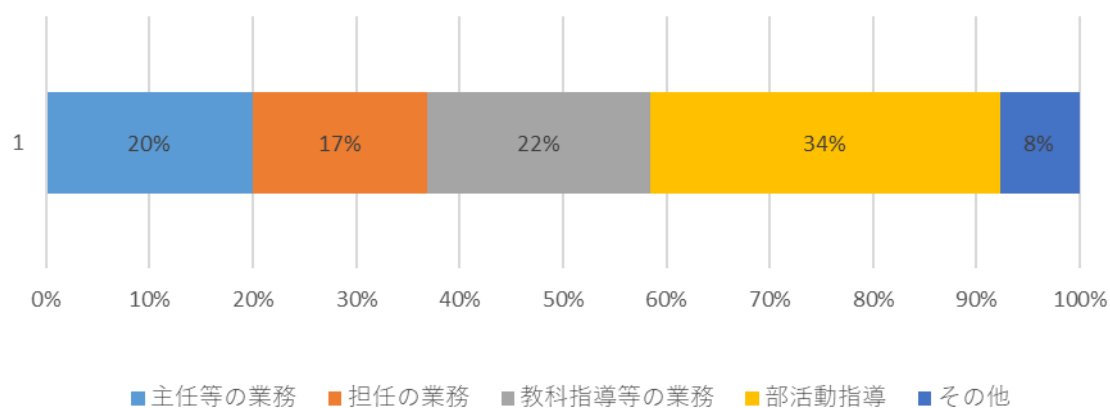
区分	割合	部活動の内容 (練習、大会、練習試合、大会引率、プログラム編成、全国大会の監督、休日の練習等)
部活動	68.6%	超過在校等時間のうち部活動の占める割合の最も高い職員 73.5%(115時間37分/85時間)
授業準備等	61.6%	
成績処理 定期テスト作成	55.9%	その他の要因 ・行事 ・保護者対応 ・会議 ・報告書作成 ・研修 ・施設見回り等
生徒指導	52.0%	
学年事務	35.8%	
進路指導	34.1%	
通知票作成	30.1%	
学級事務	28.4%	
登校指導	15.3%	
保護者対応	8.7%	

調査対象：

茨城県内の中学校及び義務教育学校後期課程の教員で、令和3年12月に超過在校等時間80時間以上かつ部活動従事時間月の10時間以上の職員

## 12 令和3年度上半期において80時間を超えた月が3月以上ある者の勤務の要因【高校】

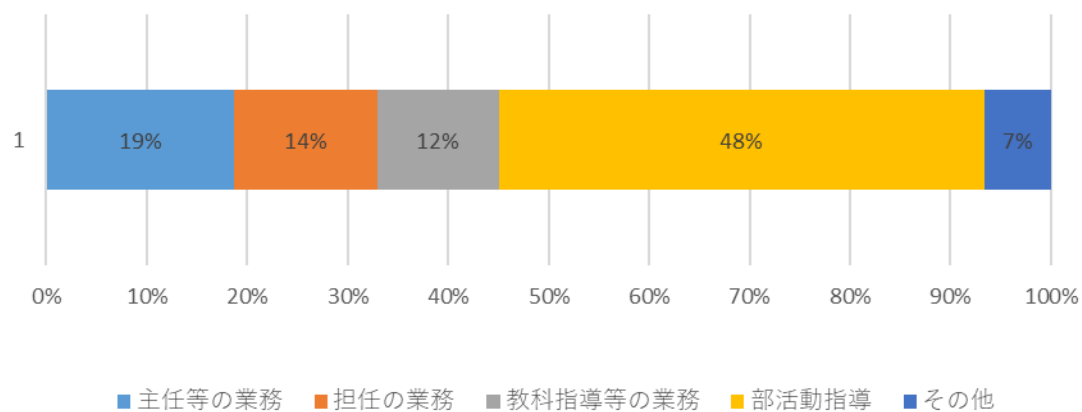
### (1) 勤務時間外在校等時間における主な業務



#### 【傾向】

- ・負担と感じている主な業務として3分の1の者は部活動指導。

### (2) 負担と感じている主な業務



#### 【傾向】

- ・超過勤務の要因は約半数が部活動指導である。一方、負担と感じている主な業務と比較すると、その差である14%の者は負担を感じていない。



### 13 部活動の適正化の進捗状況

部活動運営方針フォローアップ調査(R3.11.1)管理職アンケートより

#### 【中学校】



#### 【高校】

